日本大学 桜樹会会報

第 2 号

昭和45年 7月

日 本 大 学 桜 樹 会

目　　次

本年度6月までの試合結果 …… 2

第1回ＴＢＳ招待競技会 …… 2

第1回定期戦をみて　海谷美代子 …… 3

日体との定期戦をみて　工藤昌二 …… 4

ユニバーシァード予選会 …… 5

世界選手権第二次予選会 …… 5

東日本インカレ …… 6

東日本インカレの反省（男子）　早田卓次 …… 7

東日本インカレの反省（女子）　木村多喜 …… 9

現況報告　男子主将　佐藤均 …… 10

現況報告　女子主将　稲谷清子 …… 10

最近の体操競技の変遷　門脇春男 …… 11

外国からの便り　吉田恭子 …… 16

卒業生学校めぐり (1)　箱根修 …… 19

吉井公恵さんの死を悼む　菊地君男 …… 21

競技部からのお知らせ　小栗郁郎 …… 21

審判部だより　早川尚夫 …… 23

下高井戸「幸寿司」にて …… 23

お知らせ …… 24

会費領収について …… 25

編集後記 …… 26

本年度6月までの試合結果

本年は試合の多い1年間である。

ユニバーシァードがあり，世界選手権がある。加えて，日大対日体大の定期戦も行なわれた。これらの試合結果を，順にまとめていきたい。とりあえず，6月の東日本インカレまでの結果を，感想をまじえながらまとめてみた。

第1回TBS招待競技会

4. 19　日体大体育館

〔男子〕

団体総合　第2位　305.950

種目別ゆか	4位	山崎　忠男④	9.25
	〃	中谷　秀明③	〃
	6位	五十嵐健夫②	9.20
鞍馬	4位	庄司　忠男③	8.70
	6位	原尾　信行③	8.55
吊輪	2位	島崎　康行④	9.25
	〃	山崎　忠男	〃
跳馬	2位	中谷　秀明	9.175
	5位	山崎　忠男	8.950
	6位	山口　次男③	8.900
平行棒	3位	椎名　昇③	9.20
	5位	中谷　秀明	9.15
	6位	島崎　康行	9.10
鉄棒	3位	島崎　康行	9.30
	4位	椎名　昇	9.25
	6位	佐藤　均④	9.10

〔女子〕

団体総合　第2位　201.90

種目別跳馬	3位	稲谷　清子④	9.05
平行棒	2位	斉藤多美子④	8.80
	6位	今成　洋子①	8.30
ゆか	3位	稲谷　清子	9.30
	6位	宮川　聖子	9.05
平均台	1位	稲谷　清子	9.10
	3位	矢部　信恵①	8.80
	4位	宮川　聖子	8.40
	6位	岡田とも子④	8.05

第１回定期戦をみて

海　谷　美代子（41年卒）

今年は，ユニバシァードと世界選手権が行なわれる年とあって，それらの予選会や，毎年行なわれる国内の競技会をあわせると，かれこれ８回位の試合が予定されていることになる。それに加えて，日大と日体大にとっては，この定期戦により，もうひとつ試合数が増したことになる。

例年のシーズン開けより，２ケ月も早いこの試合に，選手達は，短かい冬の練習の効果を，どのようにまとめてくるだろうと，大いに期待して開会式に臨んだのである。

さて，演技が始まってみて，あちこちでドスン，ドスン。驚ろいたというより，それが日大の選手が多数を占めているとあっては，少々ガッカリしてしまったのは私だけではないだろう。淡路島の合宿以来，あまり上達していないように思えたのだが。

しかし，そのドスンの原因（技）を確かめてみると，そうガッカリでもなさそうにも思える。

一応，去年は入れていなかった技に取り組んでのドスンであったように思えるからである。何んの予選会も兼ねていない，しかも２校だけの試合とあって，どちらかというと実演会的なこの試合に，今年新しく使おうという技を，未熟ながら試みてみようという態度は，一面からみれば当然のこととも思われる。しかし反面，こういう見方もあると思うのだが。

去年，わが校は，２位とはいゝながら，大きく水をあけられている。それを今年は何んとしても縮めるか，あるいは，スキがあったら逆転しよう位の気迫でいかなければならないはずである。それには，この試合で圧倒しておいて，気持の上で優位に立たなければならないわけだが，さて，その作戦はというと，新しく使おうという技は，何が何んでも，ドンピシャときめなければならないのである。

いくら新しい技をみんなが試みても，失敗ばかりでは，相手にとってこわくないのが当然である。しかし，そのようなことは充分承知しているのだが，そう簡単にはできないのだという反論もあるだろう。けれども私は，とてつもない理想を言っているのではなく，もう一歩の努力，あるいは研究によって達成できることだと思うから言うのである。そして，それをやらなければ，いつまでたっても２位から上れないだろうし，悪くすると３位から押し返されてしまうことにもなりかねない。

もう済んでしまった試合の反省を，いくら並べてみても仕方がないが，８回もある試合を，出たとこ勝負で試合するのではなく，１年の計画のようなものをもって，ひとつ，ひ

とつの試合を踏み台として，階段を昇ってい　って欲しいと願う。

日体大との定期戦をみて

工　藤　昌　二（45年卒）

日体大というと，常に伝統ある古い体育館を想像するが，この度の試合は，螢光灯が，真白い壁に反射して，眩しい位の新しい体育館で行なわれ，日体大のブルー系のユニホームの中で，日大のピンクのユニホームが，とてもよく映えていた。

ダンマの臭いがしみこんでいない真新しい体育館に集った日体大，日大の選手達，TBSのビデオ取りもあって，非常に物々しい演技進行で試合は行なわれていった。

各方面の先輩方も，この試合のために，わざわざ地方から駆けつけてくれ，近年に見られぬ程，盛り上がりのある試合雰囲気であった。しかし，試合内容の方は，東日本インカレにもまだ間があり，調整面で足りないということを考慮しても，非常にお粗末なものであった。試合において，選手の実力が十分に発揮されるのは，大変難しいことであるけれども，日体大も日大も，この試合のためにそれぞれ練習に励み，十分の努力を払った上での選抜されたメンバー編成でありながら，わが日大は全くの完敗であったのは何が原因であったゝろうか。

精神力が大いに勝敗に関係してくる体操にあって，わが日大の選手は，まずその根本となるものが欠けてきているのではないだろうか。

敵は日大の仲間同士ではないのである。広く体操界を見つめ，常に，日体大を，教育大を，そして，いつとび出してくるかもしれない無名の敵を，しっかり意識し，まず己の精神に打ち克って練習に励んでほしい。日体大との定期戦がもてたということは，もう既に，日本の学生体操界は，日体大と，わが日大の双肩にあることを，そして，体操界における日大の地位，更にその日大の中の選手としての立場を，もっと強く自覚し，自己の練習目標のため，日大のため，ひいては日本体操界のレベル向上のため，常に前向きの姿勢で，貪欲にぶつかっていってほしい。

8月に行なわれるインカレに向って，この試合の結果を反省し，よい刺激として，一段と練習に励んでもらいたい。

更に，われわれ日大OBも，現役に刺激されつゝ，新結成された，"桜樹クラブ"として，大いに奮起していこうではないか。

ユニバーシアード予選会

5. 5　駒　沢　体　育　館

〔男子〕

個人総合　5位　大原　健司（45年卒）
　　9位　原　　弘吉（　〃　）

〔女子〕

個人総合　8位　稲谷　清子④　35.80
　　9位　斉藤多美子④　35.70
　　12位　小宮由美子③　35.10

世界選手権第2次予選会

5. 20. 21　　岡　　山

〔男子〕

個人総合　5位早田（38年卒）　110.200
　　13位原　（45年卒）　105.850
　　16位高橋（45年卒）　105.025

〔女子〕

個人総合11位　稲谷（4年生）　71.40
　　12位　小宮（3年生）　71.35
　　16位　矢部（1年生）　69.35

"大原君，無念のけが!!"

5月21日，本大会最終日でのアクシデント。

それまで早田先輩をしのぐ活躍をみせていた大原君が，跳馬の自由において，右足けい骨を複雑骨折，ユニバー代表権とともに，最終予選会への出場をも断念せざるをえなかったことは，実に残念なことである。

現在，日大板橋病院で，今後二回の手術を待つ大原君の胸中は，察するに余りあるが，わが新生桜樹クラブにとっても，大変な痛手である。

一日も早く回復し，あの切れ味鋭い彼の技が，再び見られるよう，大原君の気力に期待したい。

第４回東日本インカレ

6. 21　駒　沢　体　育　館

〔男子〕

	平行棒	鉄　棒	ゆ　か	鞍　馬	吊　輪	跳　馬	
山崎忠男④	9.25	9.30	8.95	8.80	8.95	9.05	54.30
椎名　昇③	8.30	9.40	9.30	8.55	9.20	9.55	54.30
島崎康行④	9.30	9.25	9.15	8.50	9.35	9.20	54.75
伊藤　繁③	9.05	8.65	8.90	7.90	8.75	9.15	52.40
山口次男③	9.40	9.25	9.25	8.80	8.40	9.10	54.20
中村栄喜③	8.30	8.30	9.15	7.45	9.50	9.35	52.05

〔女子〕

	跳　馬	平行棒	平均台	ゆ　か	
稲谷清子④	9.35	9.20	9.20	9.10	36.85
斉藤多美子④	8.80	9.00	9.25	8.65	35.70
宮川聖子④	8.60	8.70	8.25	8.85	34.40
小宮由美子③	8.80	9.00	9.05	8.85	35.70
河内余志子②	8.45	8.85	8.85	8.55	34.70
矢部信恵①	8.60	8.90	8.40	9.00	34.90
瀬上冷子④	7.80	9.00	8.45	8.35	33.60
並木松子①	8.45	8.65	9.10	8.50	34.70

〔男子〕

団体総合　第２位　271.60

種目別　吊　輪１１位　中村　9.50

3位　島崎　9.35

跳　馬　1位　椎名　9.55

3位　中村　9.35

6位　島崎　9.20

平行棒　2位　山口　9.40

6位　山崎　9.25

鉄　棒　5位　椎名　9.40

〔女子〕

団体総合　第２位　178.30

個人総合　2位　稲谷　36.85

種目別	ゆか	5位	稲谷	9.10
	跳馬	2位	稲谷	9.35
	平均台	3位	斉藤	9.25
		4位	稲谷	9.20
		6位	並木	9.10

平行棒	4位	稲谷	9.20
	5位	瀬上	9.00
	〃	小宮	〃
	〃	斉藤	〃

東日本インカレの反省（男子）

チームリーダー　早　田　卓　次（３８年卒）

今季は日体大との定期戦で幕開けされ，五月上旬のユニバーシアード大会予戦会，五月末の世界選手権第二次予選会と，シーズン入りから試合の多い大変な年である。

今大会は６月１９日の開会で，母校日大は２１日の最終班の出番であった。

昨年と比べ全般に戦力が落ちている様にみられたのは，昨年の主力メンバー，大原，工藤，高橋，等の卒業による穴があいたからであろう。とくに，大原，工藤のような試合運びの上手な選手の見当らなかったことで，大会直前まで試技順に悩まなければならなかった。標的，日体大は，最終エントリーで主力岡村，田中の欠場が決まり，戦力が落ちたものの，やはりチーム力は強いものがある。

しかし，例年と同じ結果（日大二位）になっても，点差において当然変化を期待していた。

日大は平行棒から開始されたが，これまでの試合をみても，日大の平行棒は点かせぎに定評があった。にもかかわらず，今回は苦手種目の一つとして数えられていたため選手自身のもつ不安感が心配であった。

個人総合にしても，岡村欠場により優勝者は予想しがたく，運良く日大からと手ぐすね引いていたのも事実である。

それでは，種目の試技順にしたがい，具体的に感想を述べてみたい。

＜平行棒＞

二審には先輩森君がいたためか，選手は気分的にやわらいでいたようにみうけられた。しかし，全員が難度を満足するのに必死の状態では，独創的な演技の余裕もなく凡ミスの続出に終る。とくに三年椎名の失敗は痛く，結局最高点は，三年山口の9.40にとどまり，スタートで早くもつまづきがあった。それでも我が校によせられる他校の視線に，お互いに苦しい戦いをしている様子が伺われた。

＜鉄　棒＞

上出来とはいえないが，内容四分，着地六

分の割合で採点され，意外と点数をかせいだ二種目目の鉄棒であった。

着地にミスのないことは，選手はもちろんチームリーダーとしても気持よいものである。このように今回の鉄棒に関しては，おり技で勝負が決まったように思う。屈身後方二回宙返りを軽々と行なった，日体大の藤本にあっさりメダルが決まったのも，そのせいであろう。

＜ 床 ＞

昨年までは，最高級難度の後方一回ひねりを見せ場に構成していたが，今大会ではただの連続技として評価されるようになり，後方二回宙返り，後方宙返り二回ひねりが，採点のポイントをしめていた。

その点日大は完全にしてやられた感があり，二回ひねりはおろか，一回ひねりさえも決まらず，技巧派の四年，山崎が十分な体勢で勝負にでても，恐らく勝ち目がなかったにちがいない。したがって，これからの大きな課題として，選手はもちろんのこと，コーチも一丸となり，奮起しなければと反省している。

＜鞍 馬＞

8.80点がチーム最高点とはなんとも淋しい。全員失敗した結果とはいえ，チーム成績二位の戦力にしてはあまりに，お粗末である。

各選手とも普段から不安なところで失敗しているので，日頃の練習がいかに大切かを痛切に感じとってくれれば有難い。

＜吊 輪＞

8点台三人，9点台三人に分れた。振動技が優先するためか，力技の表現が粗末になっているように思う。したがって8点台の選手は十字懸垂ができなかった。それだけに原因がある。

結局チーム得点45.75点と余り盛上らない吊輪であったが，怪力日体大の岡村の欠場で日大三年中村の優勝はひろいものといってよい。彼は経験不足に加え，東日本初参加としては，その努力をかってよい。とくにおり方の後方宙返り一回ひねりはすばらしく，審判の目を狂わすに役立ったかもしれない。

＜跳 馬＞

最後の種目ということであろうか，選手たちの全力をふりしぼっての気力は十分感じとれた。昨年の大会では，日大三年椎名が，屈身前転とびかかえこみ宙返りで優勝しているだけに，思わず力が入った。

椎名は，四番目の試技者中村が9.35点を出しているので，これを上廻らない限り連続優勝は不可能であった。一回目の一点減点には冷汗をかかされた。内容は十分，気にするのは，ラインだけでよいのだが……

しかし，二回目は，チャンピオンにふさわしく，自信ある体勢で同じ屈身前転とびかかえこみ宙返りを着地まで決め，9.55点とはさすがと，いわなければならない。

演技者として大切なことは，自分を信頼できるまでにきたえることなのかもしれない。

以上，具体的に種目を追ったが，全体的に考えるなら，今回の日大チームは，安定さに欠けていたといってよい。事実，学内選考会でも不安定さが目立ち，チーム編成に苦慮せざるをえなかった。インカレまであとわずか，難かしい規定演技だけにその苦しみは他校と

て同じであろう。癌とまでいわれる鞍馬対策が，明暗を分けるにちがいない。

最後に未熟な後輩達のため終始，声援くださった先輩の諸氏に深く敬意を表したいと思います。

東日本インカレの反省（女子）

木　村　多　喜（38年卒）

6月21日（日）駒沢体育館にて東日本学生選手権大会が催されましたが，男，女共日大チームは第二位，又個人総合や，種目別でも大部良い成績をおさめる事が出来ました。選手自身の努力もさる事ながら，これもひとえに先輩各位が，忙しい中をさいて御指導いただきました賜と深く感謝致しております。この二位の成績に甘んじる事なく，これからも精進させたいものです。特に女子の方は，毎年二位という成績に甘んじており，日体大と比較したならば根本的な優美さもさることながら全種目において独創性に欠けているのが目につき，構成の面においてもチーム全体が，観衆に訴えるものがなく平凡な構成で終っている。個々の性質も違うと同様，演技面においても，もっと個性を生かした技をとり入れて構成してもらいたい。

勝負の世界において，最終的には失敗なく無難にこなす事も大切であるが，これからの体操競技は無難にこなすだけでは何の魅力もなくなってしまう。特に独創性，優美性，柔軟性とはっきり採点の上でも決められているし，もっと積極的にとり組んでほしい。やればできるのに，まだまだ自から進んで取り組もうとする努力が足りない現在の日大である。これは我々指導者にも責任はあり，痛感しておりますが，選手自身も何事においても甘える事なく，もっともっと練習に取り組んでもらいたいものである。

たとえば，各種目に自分だけしかできないウルトラC的な技（独創性に富んだ技構成面を考えて）を自分の持技になるよう徹底的に努力してもらいたい。

これがコーチとしての要望であり願いでもある。

＜現況報告＞（男子）

主将　佐　藤　　均

文理学部校舎前の桜の開花と同時に入学して来た新入部員の諸君も，この7月で3ケ月を数えようとしており，体操部員としての自覚もつき，部員生活も活気に満ち溢れてきているようです。この新入生も大学生として最初の夏休みを迎えるまでにいたりました。

今，我々体操部員は，一番大切な時期を向えようとしております。

今年度初の大会である，東日本インカレを，男女共2位という成績で終え，後に，全日本インカレ（8月16日～19日）をひかえております。

先日，6月28日に行なわれた試技会において，30名の中から20名を一次予選通過者として，二・三次予選会で10名選考というシステムで全日本インカレ選手を選考し，決まり次第強化練習に入り，全日本インカレにそなえようとしております。

名古屋市で行なわれるインカレには，多数の先輩方が応援においで下さいますよう，お願い致します。

＜現況報告＞（女子）

主将　稲　谷　清　子

今年は例年になく試合が多く，4月下旬から強化練習をずっと続けております。

5月5日のユニバーシアード予選では，日大の女子からは斉藤，宮川（聖），瀬上，稲谷，小宮，矢部の以上6名が出場し，成績は8位稲谷，9位斉藤，12位小宮でした。又，5月30，31日は岡山で世界選手権二次予選があり，斉藤，宮川（聖），稲谷，小宮，矢部の5名出場のうち，小宮，矢部，稲谷の3名が二次予選を通過し，7月10，11日の最終予選に残りました。

6月21日の駒沢体育館で行なわれた東日本インカレでは，日体大に5点の差をつけられ団体二位と終りました。一番差のついた種目は何といっても跳馬でした。この種目だけで約3点の差がついています。

現在は，全日本インカレを前にして，6月28日（規定），7月5日（自由）の試技会をもうけ，そのあとすぐ，強化練習に入る予定です。全日本インカレの場合は，規定が加わってくるので，日体大との差が大きくならないよう，今までの試合等を反省し，研究し

ながら，インカレに臨みたいと思っています。八月からは合宿所で名古屋のインカレ出発頃迄，合宿も予定していますのでよろしく御指導お願いします。

なお6月から女子合宿所が移転しました。今までは合宿所としては狭く，何かと不便な点が多かったのですが，今度は広く，人数も今までより多く入ることができ，女子合宿所としてのかたちができてきました。まだ日も浅く，内容等まだまだ改善していかなくてはなりませんがみんなで力を合わせ，しっかりとした合宿所にしていきたいと思っていますので，これからも私達に力を貸して下さいますようお願い致します。

住所は

世田谷区赤堤4丁目35ノ6

日大体操部合宿所 TEL(322) 2989

近くにいらっしゃった時は，是非お立ち寄り下さい。

最近の体操競技の変遷

門　脇　春　男

1881年7月23日，ベルギー王国体操連盟（会長N・J・キュペリュス氏）の提唱で設立された国際体操連盟（Federation International Gymnastique）は，90年の歴史をもって今日に至っている。さらに1896年ギリシャのアテネで開催された近代オリンピック第1回大会以来体操競技は，陸上競技と共に必修種目としてとり入れられ，国際スポーツ団体にあっても古い競技団体として重きをなし広く世界に理解され実施されている。

第2次大戦後の1949年FIG code of pointが完成され（女子は1952年に完成），やっと競技会らしさがみられるようになり，1951年イタリア，クローレンスでのFIG総会で日本の復帰が決定され，国際的な競技運営（班別編成，競技規則）の採用と相いまってわが国の体操界は活気を呈するようになった。しかし採点規則は技術レベルの低さもあってか，0.5きざみという極めて大ざっぱな採点法であったし，また，前の演技者との比較法であり，今日のような難度とか構成とかについては余りやかましいことは論ぜられることなく，大変のどかで牧歌的な競技会であったと思う。けれども選手，指導者等は技の組み合わせとか，構成については，暗中模索の状態とはいえたえず神経を使っていた記憶がある。

1952年第15回ヘルシンキ・オリンピック大会に参加した日本は，世界の体操技術，体操に対する考え方，運営法に接し，わが国はもっときびしい自己の体質の改善を必要と

することを痛感し，協会の組織機構，トレーニング法，選手自身の自覚等に一大改革がなされ，今日の「体操日本」の第一歩がスタートしたのである。この１９５０年代の日本は，あたかも明治維新のごとく，広く海外へ目をむけ，情報の収集，分析，交換に全力を挙げ，外国のよさを吸収した「模倣」の時代でもあった。「独創」，「熟練」の時代になったのは，１９６０年代に入ってからである。

採点規則の変遷

１９６４年，東京オリンピック大会から採用された画期的な採点規則は，１９６２年からその原案が当時のＦＩＧ男子技術実行委員長であったArthur Gander氏（現会長）によって練られ，１９５３年５月スイスの総会で十分な討議がなされて登場したのである。われわれは，この年の暮れにはじめてその全文を読み，まさに徳川時代末期の黒船来襲の感にも似て，いささか昂奮を禁じ得なかった。「１Ｃ　４Ｂ　６Ａ」の要求難度，各器械の特徴を生かした技の構成要素，合理的かつ学理的な採点方法ということだが，しかし審判の立場からみて，選手の演技中に，難度の勘定をし，構成要素が満足していたかどうかを判断し，さらに採点をするということが可能だろうか。また，はたして客観的な採点ができるだろうかという危惧の念も反面あった。しかし難度の原理，採点規則の骨子，難度表等をよく読み理解してみると，いままでのやり方の矛盾，不合理さが浮きぼりにされ，演技の良し悪しの判断，基準が体操技術の向上と共に，もっときびしくはっきりと落差をつけざるを得なくなったのである。

日進月歩，いや，それよりももっと速いスピードで技術が変化し，進歩してきている現在にあって，このルールをさらに変えなくてはならない状態になった。そこで１９６７年新採点規則の原案が提案され，１９６８年６月ローマでの技術委員会総会で発表され審判講習会がもたれたのである。

６８年版は７１条の条文からなり，６４年版の９条に比べて８倍にも条項が増えて，よりきめこまかいルールとなった。このルールの変更で特筆すべき点の一つは，第３０条の「構成要素」にもっときびしい条件をつけたこと。もう一つは，第４５条の「種目別選手権における採点」で加点要素を加えたことである。この他に難度の格下げもあったが，これはいままでも，不合理とされた箇所は整理されたことである。しかし，難度表は時代と共にこれからも徐々に変化してゆくものである。

ここで，加点要素となる「独創性」「決断」性」「熟練性」について少し触れてみると（昭和４５年２月日本体操協会男子競技本部理解及びガンダー註釈より引用），

独創性……新らしい運動形態，新らしい技法，新らしい組み合わせが演技の中におりこまれてくる。比較的単純な演技にもあらわれてくる。

決断性……難度，構成に関連し習熟度が高くても運動構造からして修正巾がせまく，失敗の可能性が前にある技を大胆に実施すること。これは高度な演技にのみ存在する。

熟練性……一般的には，名人芸的なものを指している。技の極限に到達し人を感動させるようなダイナミックで素晴らしい技を実施すること。これは，容易な技，部分にもあらわれる。

跳馬を除いた他の５種目において，どんなに難度が満足し立派に演技を実施しても上記のものがなければ9.7満点である。即ち満点の１０点をとるためにはこれら三要素をみたすべく演技をしなければならない。しかしこの要素の有する具体的な技は，時間的なもの，地域的なものによって常に変化してゆく性質のものである。日本においてこの三つの要素を満足させるには，片輪になるか軽業師になるか位の大変苦労のいる骨の折れることではあるが，ソ連を除いた各国では，日本の演技の大部分は，独創性あり，決断性あり，熟練性ありと認められ，高いボーナスポイントを得ることができる。跳馬にあっては，9.4満点で，0.6の加点があることになって，技の大きさや冴え，運動の極限といったものが発揮できなければならないわけである。いままでは，実技（姿勢，技術）の欠点がなければよい点がもらえたものが，こんどは簡単にはよい点がもらえなくなった。そこで選手，指導者は，いまもっている技の習熟度を高めると共に，新技の開拓，組み合わせによるより高い難度の研究がなされなくてはならない。

技の発展について

古い時代にあっては，いろいろな技が，ああもできる，こうもできるといった程度の身体運動であったろう。さらにそれがやや職業化し（ある意味では専門化し），軽業師，サーカス，見せ物という型で人の意表をつく身体運動に変化した。

１９世紀に入って，Friedrich・L・Jahn（１７７８～１８５２）の出現により，体操術語の分類，集成がなされた。それは教育面での体操技術のみならず，体操競技の分野でもとり入れられるようになり，今日の体操競技の発展のために大いなる貢献をしたのである。

戦後，１９５０年わが国が，アメリカ・チームを招聘したが，監督はR・Moor氏，Scrobe Edvard，Roetzheim，William，Simms Charles選手がみせた，ゆか，マット運動，あん馬の技術は全く流動的で高度の技であった。ゆかの構成，力技（片手水平支持なるものもはじめてみた），静止技，跳躍運動，特に連続の運動（後転とびの連続から宙返り一前宙一ヘッドスプリング等），あん馬のすばらしい水平運動旋回（当時の日本の旋回はつま先が非常に低くか

った）日本の体操界は，あたかも「旱天に慈雨」でアメリカのもっている技術を余すとこなく吸収したものだった。

１９５３年，来日した西ドイツ・チームのDickhut Adolbert，Bantz Helmut，Weid Erich，女子のWalther Irma，Voss Wolfgard選手の技は，平行棒，鉄棒のスウイングに素晴らしいものがあった。東京大会は両国のメモリアル・ホール（現日大講堂）で行なわれ，鉄棒でのHechtgrätscheは，われわれの想像だにしなかった大技であった。ヘルシンキ・オリンピック大会に参加した金子明友選手は，オリンピック中にこの技をマスターして帰国し発表した演技にも驚いたがそれよりももっと大きく雄大な飛行であった。女子は，はじめての国際競技会であったが，これより後の発展に多くの刺激を与え，今日の女子体操界に貴重な足跡をのこしたことは，１９５４年のローマでの世界選手権大会に初参加した(註)田中（現池田），池田（現相沢）選手の活躍につながった。

(註)．田中さんは平均台で優勝

規9.366　自9.700　合計19.066)

この頃は，技法の発展がソ連によって大いになされた頃でもある。例えば１９４８年代に後方開脚浮腰回転ー倒立を発表したStalder選手の技が，ソ連のP・Stolbov選手によって工夫され別の技の如き印象を与えた。背筋力をきたえ，後方回転のときのオトシとツブシ（身体の屈げ）に工夫をこらした結果である。さらには，２０世紀前半にSteineman選手が順手の背面振上りを行なってあっといわしたがこの振上り時のアフリの技法に工夫をこらしたV・Kerdemilid選手の背面車輪は，われわれに技というもの，技術というものについて開眼させられた思いがある。最近では，メキシコ・オリンピック大会でつり輪の前方懸垂回転のうしろ振りと肩のかえしとの技法は日本の苦心になる技さばきである。ローマ・オリンピックの平行棒で逆上りー懸垂け上りの腕の伸ばしと肩角度との関係等，この一見して平凡な点の修正こそがオリンピック３連勝への基礎となっていることに注意しなくてはならない。

このように技の形態が同じでも，技法の発展によって技は大きな変化をとげ発展することがある。一方，形態上の変化，即ち全く独創的な考え方，創作された技もある。つり輪での車輪（1964年日本が完成），つり輪で，下から上への運動の変化（1952年ソ連），山下とび（1962年日本），Diamidov選手の平行棒での前振り片手支持１回ひねり，遠藤選手の鉄棒での大身伸とび越し１回ひねり下り等がそれである。日本の選手の進むべき道は，技の発展と新らしい技の開発にあたることは論をまたない。

先般６月２１日に行なわれた，東日本インカレの平行棒で「前振りひねり支持（３０°以上）ー直ちに懸垂け上りーうしろ開脚抜き支持」（B＋B＋C）また，岡山での２次予選会（５月３１日）の平行棒で「懸垂け上りーうしろ振り前方棒上宙返り支持ーうしろ振

り開脚抜き脚前挙支持」（C＋B），という新らしい組み合わせ技も最近発表されている。跳馬においては，昨年秋の全日本選手権大会で，「側転とび後方かかえ込み宙返り」あるいは「前方2回宙返り」等が発表された。このように，日本人の秀れた能力と，たゆまざる努力，行動力，決断力，素質は他の追従を許さないものがある。しかし，これらの技の発展は，アウトブレーク的（偶発的）なものであってはならない。できることならば，技の発展をもたらすなんらかの原理をみいだし，それをMorphologyとして発展させ，位置づけることが大切である。

器械，器具の変遷

器械，器具は，安全性，各器械の特性を考慮され寸度，構造が常に変りつつ現在に至っている。

ロイター式低踏切板は，１９５８年第１４回世界選手大会（モスクワ）からで，ゆかにおいては，１９５６年第１６回オリンピック大会（メルボルン）で，フェルトとキャンバス，１９５７年世界青年友好祭（モスクワ）はペルシャじゅうたんを使っていた。ロイター式フロアーは，1960年の第17回オリンピック大会（ローマ）からであるが，現在のようなパネルに直接布をはりつけたものではなかった。現在の型のものは１９６６年第１６回世界選手権大会（ドルトモント）からである。

日大の体操場にあるのは，メルボルン型であり，日本製品としてははじめてのもので，文化財的な価値のあるしろものである。

女子の器械は，１９５４年第１４回世界選手権大会（ローマ）から平均台の断面の形が，長方形から太鼓型となり，また，１９６７年ユニバーシャード東京大会から段違い平行棒，平均台がロイター式構造に変った。

男子のあん馬，跳馬の長さ（180cm→160cm）……１９５８年，跳馬の高さ（130cm→135cm）……１９５８年，さらには，跳馬の区分線は（60，20，40，20，60cm……１９５８年まで），（40，20，40，20，40cm……１９７０年まで）１９７０年のルブリアナの世界選手権大会は（60，40，60cm）となった。また，ゆかの広さは（8m×8m→12m×12m）……１９５１年，東京オリンピック大会で使ったような演技台を使うようになったのは青年友好祭モスクワ大会（１９５７年）からである。

以上のように，わが国の体操界が，ＦＩＧに復帰してから今日まで２０年の月日を経たが，いろいろの変遷があった。

体操の発祥地であるヨーロッパ諸国は，１９４８年以降オリンピック初参加のソビエトに破れ１０年苦汁をなめさせられた。１９６０年には，日の出ずる国「日本」にそのタイトルを奪われ今日に至っている。わが日本がこの王座を堅持するためには，いままで以上の努力と研さんとを重ね，奢ることな

く謙虚な気持で「体操の道」をあゆまねばならないと思う。体操は決して，見せ物や軽業師ではない。スポーツとして発展できないときは日本が破れるときであることを忘れてはいけない。

（１９７０年６月２５日）

「外国からの便り」パナマより

吉　田　恭　子

吉田恭子，４４年３月卒業，３年，４年と女子の主将をつとめた。

昨年４月，羽田よりパナマに出発。現在パナマで，体操をひろめようと必死にがんばっている。あと何年かパナマにいるとのこと。わが桜樹会の会員に，このような人間がいることは，頼もしい限りである。しかし現実はなかなかきびしく，悩みも多いようである。以下，彼女からの最近の便りである。

（編集子）

前略

その後お元気ですか？

私の方は相変らず元気でやっております。日本に帰っていた１ケ月間のブランクの大きかったこと，パナマに帰ってきたとたん，休む暇もなくあちこちとびまわっています。選手が全々練習をやっていないの。というのは，どういうわけか，オリンピック委員会が，試合が終ったとたん，器具を全部倉庫にしまってしまったの。他に器具はないのだから，倉庫に入れたら練習ができなくなることぐらいわかり切っているのに，本当に訳けのわからないことをやるから，ときどきイライラさせられる。

（注．今年の４月に一度日本に帰り，日大と日体大の試合を観戦）

１ケ月のブランクは大きかったけれど，日本に帰って良かった。１年間，体操に毛がはえたようなのを教えていると，やはり良いものを忘れてしまう。ちょうど，日大と日体大の試合を見られたことで，１年間の日本の体操が，どういう方向に動いてきているかが少しはつかめたし，なにしろ，ボケてしまった頭にとっても，良い刺激になりました。

パナマに来た当時，ちょうど１年前の今頃を思い出す。言葉もまだ良くわからず，夢中でした。選手はいないし，器具といえば，倉庫行きのようなものばかりだし，協会も，こちらに来てからできたという具合で，何しろ，全てがはじめてで，どうなることやらと不安でした。

――気分を取りなおして，まず選手集めから，体操の好きな子を集めました。

倒立前転みたいなことをやる子が一番できる子。体は固いし，力はないし，平行棒の後回

りができないんだ。学校体育で何をやっているんだろうと思ったら，学校体育がないらしい。びっくりしたわ。あるのは，高校に入ってからとのこと。そんな状態で，1年間で試合に出せっていうんだもの。その試合のために私は呼ばれたのだけど。コーチさえくれば試合ができると思っているんですもの，ひどいわ。（注．今年の2月28日～3月14日まで，パナマで行なわれた23ケ国，セントロ，アメリカ，カリブ大会）

そんな訳けで，試合に出すことのみを考えて必死。

スパルタ式の1年間。パナマの人は時間を守らないことおびたゞしい。1時間位平気で遅れてくるし，遅れるのが常識みたい。それと，動作や仕事がのろい。暑いせいもあるのでしょうけど。だから選手の反射神経がとても鈍い。なかなか日本人を教えるようにはいきません。時間に遅れれば，正座とか，補強を倍にして，徹底的に悪い所をなおさせ，どうやら気持も体操人みたいになってきたところ。試合のため，集めた選手の中から7人選び，最初の試合は，9月にメキシコから招待された18才以下の試合。半年たたないうちの試合なので，高級，中級難度なし。ただわずかな経験のみという試合をやってきました。

その試合で，自分達より小さい子が，宙返りや，むずかしいことをやっているのを見て，少し刺激され，それ以来，あれをやってみたいとか，これをやってみたいとか言ってくるようになり，ひとつの進歩。そして今年の1月，キューバに合宿と練習試合を兼ねて遠征。規定のみの試合をして，「やればできる」という自信が持てたらしい。規定は，やさしいけど，何もやっていなかった子にしてみればむずかしい。試合経験の大切さを，改めて感じている。1回，2回と，私の教える以上のものを，自分自身でつかみとってくる。

12月にやっと新しい国際規定の器具が入り，3月の試合会場を練習場として，全部設置することができ，本格的な練習はそのあたりから。

――学校も1月から休みに入り，さっそく合宿。午前，午後と7時間近くの練習．6人をひとりでみるので，補助やら何やらでコーチの方がバテてしまってグッタリ。

3回目に本番の試合。キューバ・メキシコ・パナマ・コロンビア・ベネズエラの5ケ国。大差をつけられたけど，銅メダルを取った。中南米の辺は，体操はまるでダメ。でも，キューバはすばらしいわ。また国でもすごく力を入れているシステムは，ソ連と同じみたい。小さい子供達6人位が1グループで，それにひとりづつコーチがつき指導している。11才位の子供達が，びっくりするようなことをやっている。準備運動も，マット運動も，ピアノの伴奏つき。強化選手は18才位。

その試合が終り，1ケ月の休暇がもらえたので，日本に帰ったわけなの。

現在，8月にベネズエラで行なわれる5ケ国のボリバリアン大会，9月にキューバで行なわれる南北両アメリカ選手権（コパデラス

・アメリカス）という大会を目標にやっています。アメリカの体操がみられるので楽しみ。

パナマは1年中暑いところ，雨季と乾季しかない。雨季は4月～11月頃まで，今，毎日午後になると，すごい雨が降る。真黒な雲があっという間に広がって，10分もすると道路は川のよう。水はけがよくできているらしく，雨が2時間くらいであがると，さっと引いてしまう。雨ではなく，バケツの水をバシャッとまいたような降り方でね，来た当時は，すごいなあって，感心ばかりしていたわ。乾季は12月～3月頃まで，雨が降らずとっても暑い。植物も育ちがとても早い。人間にしてもそう，髪の伸びるのや，つめののびるのが，ずい分と早いのよ。

野菜も豊富だけど，大きくて皮の固いことといったら，キュウリなんて皮は食べられないし，口に入れたら種がゴリゴリって感じ，そのくせ大根は15cm位の細いのしかないのよ。おかしいね。

果物はいゝわ，沢山あるし，安いし，おいしいし，パパイヤ，マンゴー，やしの実とか，日本では食べられないようなものもある。

食事は自炊しているから，好きなものが食べられる。お米があるので助かるわ。でも細長くて，ねばり気がなくておいしくないの。でもがんばって食べています。こっちは，みた目においしそうで，きれいでなんて考えず，食べればいゝという感じ。

お肉にしても，日本のように上，中，並，だなんてクラスなし，骨つきでバッサリ。日本人は本当にきめの細かい人種だと思う。日本人で良かった。四季のあることは本当にすばらしい。こちらのように，1年中ボケーッとしていないもの。日本って本当に良い国だと思うわ。

パナマで見る所といったら，パナマ運河と旧跡位しかないわ。日曜日，時間があると運河に釣りにでかけるの。大物が釣れるのよ。50cm近い魚とか，隣りの人がサメの子を釣りあげたり，1mくらいあったかしら。エイも釣れたわ。

日本の船が良く通る。最初の頃は，日本の船や日の丸を見ると，遠く離れているんだなあって感傷的になったりしたけど……。

パナマは何も遊ぶところなし。パチンコ屋さんぐらいあればいゝのにね。

パナマは貧富の差が大きいわ。お金持は，車を2，3台もっているけど，貧しい人は，バス代の，たった5セントさえも払えない感じ。黒人が多い。パナマ運河を造った当時，働きにきた人達が住みついたからだと思う。パナマ人は，スペイン人と，パナマのインディオの混血と聞きました。黒人系，白人系，インディオ系，いろいろな人がいる。

中南米一帯は，ひどくぶっそうで，パナマにもどろぼうが多い。ポリスもすぐピストルをうつし，ケンカしたと言えば，ナタで切りあいとか，文明国ではないわね。

パナマの国の中に，カナルゾーンと言ってアメリカ領がある。運河も，アメリカのもの

で，その両岸，1Km以内がアメリカ領・そんな関係でアメリカ人は多い。

品物はほとんどが輸入品。世界各国の物が入っているので豊富，でもとても高い。

何かまとまりもなく書いてしまったけど，こんなところかしら。

あと3年位やってみるつもり，もちろん契約できたらの話だけど。

素質のある選手はいないけど，育てた選手はやはり可愛いわ。いま，日本に帰ったら，パナマの体操も多分終り。協会がしっかりしていないこと，それに指導者がいないこと。ひとりでもしっかりとした，体操に情熱のある人がいたらいゝのに……。

いま，選手をしている6人が，将来しっかりした指導者になってくれることを望むだけね。

それにしても，少しでも日本人的気質のようなものをもっていてくれるなら，ちょっとは違っているでしょうにね。

ずい分長々とデレデレと書きました。文のおかしなところは，パナマボケしたと思って，理解して読んで下さい。お友達に会ったらよろしく伝えて下さい。

元気でがんばっていますって……。

Adios

6月2日

キョッペより

（原文のまま）

「皆さん，パナマで，ひとりで頑張っている吉田さんに，激励の手紙を書いて下さい。一通の便りが，どれ程勇気を与えてくれるか……よろしくおねがいします。」

吉田恭子の住所

KYOKO YOSHIDA
P.O. BOX. 6164
ZONA 5 PANAMA
R. DE. PANAMA

人見省吾の住所

SHOGO HITOMI
Abenida Generalisimo
No−76, piso 90B.
Madrid−16, ESPAÑA

≪卒業生，学校めぐり≫ (1)

日本大学第二中高等学校（日本第二学園）
44年3月卒業　箱　根　　修

私がこの学校に就任したのは，44年9月，もうすぐ一年になりますがここに決まる前はなかなか，就職先がみつからず，なかばあきらめていた矢先に出てきた話でした。

場所は中央線の荻窪駅を下車して，徒歩15分位の所にあり，都内にある学校ではこれ程広い敷地を持ったところはあまりないのではないかと思います。

参考までに

校地総面積　６１,９００㎡

校舎敷地　１４,１００㎡

校舎総面積　１７,３００㎡

だいたい，野球場が４つ位とれておつりがくる位の広さです。

生徒総数　2,３２４名

中　学　４３２名

高校男子　1,２６３名

高校女子　６２８名

中学，高校男子部，女子部，と別れており男，女，別学になっています。

体操部も，中学，高男，高女と三つありますが，部員数は，中学，８名，高男，１６名，高女，８名，合計３２名と，あまり多い方ではないと思います。何分にもたった一人で教えているので，これだけの人数でも，全部に手がまわりません。現在は高男の方に重点を置いて練習を行なっています。そのうちに，という気持は誰でも持っていると思いますが，私も現在の気持を生徒にぶっつけているのですが，中々自分の思う通りにならないのが，現状です。

練習は週６日制で日曜日は休み，時間は授業が終ってから，だいたい３時半頃から，５時半までの２時間，実際に動いている時間は１時間半位しかありません。

月，火と体育館が使用できないので，外で練習をやっています。水，木，金，と体育館で練習，土曜日は１週間おきに，体育館と外という具合で，あまり環境にも恵まれておりませんが，そこは練習内容で補っています。

現在はまず公式試合に出場できるように，頑張っています。いままでは，区大会とか，新人戦だけで終っていたようですが，今年から一応，都大会を目指して練習に励んでいます。体操部の歴史は古いようですが，いままで，あまり熱を入れていなかったようで，その点，私自身にも課題が沢山あるように思います。体育館の使用問題や，時間の問題，中学，女子，男子の三つをどのように教えていくか等いろいろありますが，自分では中学から６年間を上手く指導すればどうにか成るのではないかと考えていますが，まだ就任して一年目なので自分の自由にはなかなかなりません。計画ばかり先行して実施となると思うようにいかないのが現実です。

今まで読んでいただいたように，まだまだ技術的に未熟者ばかりですが，全員持っている夢は大きく，その夢に向かって毎日練習に励んでいます。

吉井公恵さんの死を悼む

総務　菊　地　君　男

第4回卒，吉井公恵さんが，去る4月12日急性肝炎のため，郷里鳥取県米子市の自宅で亡くなりました。
4月末日の結婚式を間近かにひかえ，実に痛ましい限りです。

桜樹会からは，春山文子，海谷美代子のおふたりに，代表として葬儀に参列していたゞきました。
おふたりとも，死の当日届けられた純白のウエデングドレスを身につけて棺に入る彼女の姿に，涙を禁じ得なかったとのことです。

郷里鳥取に帰る直前，日大病院を退院し，一時三島に寄った吉井さんから，3月20日付で，次のような便りが届いております。

“1ケ月程三島を留守にしておりましたので，連絡が遅れてしまいました。不真面目な会員で申し訳ありません。この度やっとこさ（4月28日）結婚することになりました。新住所は下記の予定です。今後とも，よろしくおねがいいたします。”（原文のまま）

そして，

5月25日，米子市の父上より，郵便振替の払込通知票が届きました。その通信欄に次のようにありました。

“冠省，先般，三女公恵死去につきましては，御丁重なる御厚意に接し，衷心より感謝申し上げます。遺品を整理しましたら，会費の未納文書が発見されましたので御送付申し上げます。

会員の諸賢によろしく御鴻声下さい。

吉井公恵

父　吉井正夫”

本会の事務を引き受けて7年になります。結婚や，出産の知らせは実に嬉しいものですが，此の度のような訃報に接するとき，やりきれない気持になってしまいます。

皆様とともに，吉井さんのご冥福を，心からお祈りしたいと存じます。

競技部からのお知らせ

競技部長　小　栗　郁　郎（39年卒）

日本大学体操部は誕生以来，11年間の汗と努力により，今日では，全日本の上位に君

臨するまでに至りました。又年々ＯＢの人数も増え，多方面にわたり活躍されております。

日本大学桜樹会も，発展の途にあり，世界選手権大会，その予選，全日本選手権大会，国民体育大会，と体操競技の檜舞台で活躍されている現況ですが，今日まで，個人的に日大ＯＢとして，競技に参加するにすぎず，団体として参加したということがありませんでした。

先般，体育協会の一室を借用し，幹事会がもたれ，諸種の部の発足提案があり，桜樹会総会で，諸種の部の発足が決定されました。東京在住ということで，競技部をまかされましたが，右も左もわからず，諸先輩方に迷惑をかけてしまいましたが，まずどのような形で，桜樹会の名を全国に広めたらよいか，ということから出発したわけです。まず桜樹クラブを全日本体操協会に加盟申込をし，桜樹クラブとして選手登録をすることで一つの体系を形づくろうと思ったのです。

選手登録の期日もせまっていましたので，とりあえず，東京に在住，在職している現役ＯＢ選手，早田貞次，朝倉徳雄，津村二郎，山本好隆，大原健司，原弘吉，工藤昌二の七選手を，桜樹クラブとして登録いたしました。このようにして，事務手続も完了し，一年生の桜樹クラブが出発したのです。

世界選手権予選の試技会も２度ほど，文理体育館でもち，現役学生選手に負けない，ハッスルぶりを発揮しております。

４５年度もすでに，ユニバーシアード決定戦，世界選手権大会予選に桜樹クラブとして，数名のＯＢが参加しております。

早田卓次選手は，世界選手権大会二次岡山大会で，総合５位におり，決定戦（７月１０.１２日）にも活躍が期待されております。

大原健司選手は，ユニバーシアード大会参加決定，世界選手権大会２次岡山大会で規定上位にあったのですが，自由跳馬にて，右足骨折の不運にあい，残念ながら決定戦には，不参加と同時に，ユニバーシアード大会の参加もあやぶまれています。大原選手の怪我は桜樹クラブの痛手であると共に，日本の体操会も大きなショックを受けたのです。再出発の出来る日を期待したいと思います。

世界選手権大会最終決定戦に出場する原，高橋，両選手にも大きな期待をかけています。

今後も桜樹会，桜樹クラブの発展の為，ＯＢの皆様方の応援をお願い致します。

来年度は，ぜひ選手登録をして，桜樹クラブより全日本選手権等に参加して下さい。

女子の桜樹クラブがまだ誕生しておりません，全国の女子桜樹会員の皆様来年は，選手登録をして，男，女，共に桜樹クラブが大会に参加できる日を楽しみにしております。

以上現況報告を致します。（５.３０）

注：7.１２
早田　世界選手権代表決定
原，稲谷　ユニバー代表決定

審判部だより

審判部　早川　尚夫（43年卒）

日本大学体操部も創設以来，本年をもって11年の年月が過ぎました。それにともない，公認審判員認定証を，お持ちの方が非常に多くなりました。しかし，認定証を書き変える人が少なく，自然解消になる人が多くみられます。これから審判員証を獲得される方，現在もっていられる方は，次の事項を確認していただきたいと存じます。

審判員証の有効期間は，今迄通り，2ケ年ですけれども，認定の仕方が今迄と違います。

たとえば45年の7月7日に講習会を受けた場合は，46年の1月1日に，正式の審判員として認定されます。従って48年の，1月から3月31日の間に，書き変えを行うことになります。又46年の3月に講習を受けた場合は，46年に逆上って認定されます。講習会を受けた月日が，4月～12月の間にあると，審判員証を認定されるのは，翌年の1月1日から，又，1月～3月の間に講習会を受けた場合は，その年の1月1日に逆上って認定されます。

以上，間違いのない様にご注意下さい。

現在，有効の公認審判員認定証のおもちの方は，審判員名簿を作製致したいと思いますので，修得年月日，（書き変えをおこなった者は，書き変えた年月日）と種別（1種～3種）と，氏名，年令，勤務先（住所），現住所，審判員証登録場（都道府県別），TELを記入のうえ，下記までご発送下さい。

東京都小金井市梶野町3－11－11 〒184

早川　尚夫宛

下高井戸「幸寿司」にて

45. 3. 15

総会のあと，なんとなく集まった，OB，OG，連中。第一回卒の稲橋から，今年度卒の者まで，その差，1回生と11回生。

この中でなんのわだかまりもなく，このように話せる，日大体操部のOB，OGとしてのつながり，簡単にいったらただそれだけではないか。

人数にして，12人。諸先輩方は，下高井戸の昔の思い出話。今年卒，私などは，ただそれを聞いているだけで楽しい。皆さん！，どうですか，あらためて，ここで呼びかけます。日大桜樹会としての自覚。こんなすばら

しいつながりがあるでしようか！

ノンポリＯＢ，ＯＧの方にここでひとこと，今年は桜樹会として立ち上がる時です。

皆さん，昔の思い出話を話しあおうではありませんか。こんな楽しいひとときを無駄にしてはいけません。一年に一度でもいいです。あるいはその中から……相手が見つかるかも？これは独身者だけですが……。

皆さん，日大体操部を思う気持は誰でも，皆同じだと思います。全部，出席して下さい，なんて事はいいません。たった一度でも，総会だけは出席して下さい。そうすれば，この桜樹会のすばらしさが分っていただけると思います。

桜樹会の皆さん，今年を一つのきっかけとして立ち上がろうではありませんか，このすばらしい，日大桜樹会を育てようではありませんか。１人，２人ではできない事も，３人，４人……多数になればできるのではないでしようか。桜樹会の皆さん，話し合い，語ろうではありませんか，昔の思い出話を……

日大体操部を思う気持，これは体操部に４年，いや一年，一ケ月でも籍を置いた方には分っていただけると思います。

皆さん，あなた方は日大体操部のＯＢ，ＯＧなのです。私個人としてもお願い致します。まだ若輩ものですが，この情熱は分っていただけると思います。

最後に，

よろしくお願いします！

（編集委員　箱根）

お　知　ら　せ

このたび，日本大学保健体育教育審議会の発足にともない，部長，監督の交替があり，新部長には，浜田靖一先生（文理学部教授），新監督には，遠藤幸雄先生（文理学部助教授）のおふたりが就任されました。

７月１４日午後６時より，前部長平野平三先生ならびに，前監督門脇春男先生の慰労の会が，麻布プリンスホテルにおいて，橘局長はじめ，来賓，卒業生，現役１００余名が参集して，盛大に行なわれました。

尚，新部長，監督のご挨拶は，次号に掲載させていたゞくつもりでおります。

会費領収について

総　務

昭和45年3月15日の総会以降，7月10日現在までに，多数の方々から送金がありました。本来ならば，折り返し，領収証をお送りしなければならないところですが，何分多忙のため，遅れましたことを心からお詫び申し上げます。本会報紙上に一括して掲載するとともに，領収証を同封いたします。

現金にて

4.	4	鶴見興人	2,500
	19	木村多喜	2,500
	22	山中勝男	10,000
5.	225	金子　剛	1,000
6.	1	綱島路正	1,000
	3	稗田房子	4,000
7.	10	椎野芳挙	1,000
	〃	角　佐久良	3,000
	12	岡本公子	2,000
計			27,000

口座にて

4.	9	小柴守夫	2,500
	13	上野優子	2,500
	14	田野　哲	2,500
	15	早川尚夫	4,000
	20	岩沢　稔	5,500
	23	堀田淳二	2,500
	〃	平川文雄	2,500
5.	7	中村寿美	1,000
	〃	山田昌子	1,000
	〃	岡田美恵子	1,000
	〃	神崎悦子	1,000
	8	徳永先子	1,000
	13	八戸　昭	1,000
	21	吉井公恵（父　正夫）	2,500
	25	海谷美代子	1,000
現在高			32,320

（但し手数料本会負担）

編　集　後　記

6月発刊の予定が，約1ケ月遅れてしまいました。

その間，世界選手権の最終予選も終り，また，部長，監督交替という，大きな出来事もありました。しかし今回は，それぞれニュースとして知らせるにとどめ，一応，東日本インカレまでの成績等を中心に編集しました。

旧聞に属する話題が多いかもしれませんが，ご了承願いたいと思います。

次号は，9月頃，インカレの結果等を中心に発刊の予定です。皆様からの積極的なご寄稿をお待ちします。

原稿送付先

千葉市花見川3−12−302

〒284　　菊地君男